

歯科衛生だより

発行人/吉田 直美
発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
https://www.jdha.or.jp/

2023 December vol.78

人生100年時代、求められる地域医療連携とは — 歯科衛生士の専門性を探る — 日本歯科衛生学会第18回学術大会

主催：日本歯科衛生学会／公益社団法人 日本歯科衛生士会
共催：特定非営利活動法人 静岡県歯科衛生士会
後援：静岡県／一般社団法人 静岡県歯科医師会／一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会／一般社団法人 静岡市清水歯科医師会

本学術大会は標記タイトルをテーマに2023年9月16日(土)から18日(月・祝)にかけて、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で開催されました。4年ぶりの会場開催で、参加者は1587名、企業展示も31社と多くの方が参集され、笑顔の交流と研鑽の場となりました。



シンポジウム登壇者と座長の
日本歯科衛生士会 久保山副会長(右)

会員より口演36題、ポスター83題が発表され、特別講演、教育講演、シンポジウム、日本口腔衛生学会共同企画など多くのプログラムがありました。後日、オンデマンド配信もあり、色々なライフステージの会員が全国から参加可能となりました。詳細や画像については、日本歯科衛生学会ウェブページをご覧ください。

以下は会場開催のみとなりましたが、同じ環境で働く参加者の生の交流の場となり、日頃の悩みなどが共有でき、仲間たちから力をいただく会となりました。



開会式

日本歯科衛生士会全国病院歯科衛生士連絡協議会

厚生労働省医政局歯科保健課長の小椋正之先生から「歯科保健医療に関する最近の動向について」ご講演いただきました。

ワークショップ1 「在宅・施設において求められる地域連携」(日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会)

ワークショップ2 「行政の歯科衛生士の将来ビジョンを語り合おう—都道府県、市区町村に勤務する歯科衛生士が職能を発揮するために—」(日本歯科衛生士会 地域歯科保健委員会)

ワークショップ3 「診療所歯科衛生士の魅力を語ろう!」(日本歯科衛生士会 診療所委員会)

県民フォーラム 百年後の静岡が豊かであるために

ふじのくに地球環境史
ミュージアム 館長

佐藤 洋一郎 先生



一般の方々も参加できる「県民フォーラム」も、4年ぶりの現地開催となりました。毎回、講演は学会開催地と縁のある著名な方をお願いしています。

講師の佐藤洋一郎先生は1952年に和歌山県でお生まれになり、京都大学農学部をご卒業後、数々の教育・研究機関を歴任され、イネの起源や農業と環境の関係史、また和食文化についてフィールドワークを中心とした手法で研究されています。現在は、静岡県静岡市にある「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の館長として、静岡県産の食材消費について新しい視点からの活動を提案されています。

佐藤先生は、講演の中で静岡県は富士山や南アルプスが北にそびえ雨量が多く大きな川が発達して水が豊かであり、火山帯に属し土壌環境も複雑で急峻な山や巨大断層が複雑な地形を生む多様な農業環境・魚の生育環境であること、その環境から生じたナラ林と照葉樹林とが入り混じる多様な生物環境があることを大きな地図を示されて、分かりやすく話されました。なかでも、固有の環境を生み出している山の斜面を利用した焼畑や、そこで収穫される蕎麦の実の味の良さを活かした蕎麦職人による調理法が紹介された時には、会場の皆さんが身を乗り出して興味深く聞き入っていました。

また、静岡県にはこれほど多様な食材があるものの、歴史的な地域に根差した宗教や武家文化の影響から、その食材の良さを活かした静岡食という文化が醸成していないことが紹介されました。地域の食文化も、その地の政治権力者の方針に強く影響されて発達するものだと改めて気づきました。今では、腕の良い料理人の方々の努力によって静岡食という文化が生まれようとしているそうです。今後、そう遠くない日に、県外からのお客様に静岡食をご紹介できそうで楽しみになりました。健康長寿の実現には、地域の豊かな食材をより美味しく食べることが大切だと改めて考える機会を頂きました。

(第18回学術大会大会長 特定非営利活動法人静岡県歯科衛生士会会長 森野 智子)

